

# ふりかえって

新年明けましておめでとうございます。平成20年の幕開けを、心からお慶び申し上げます。

今、国は膨大な赤字財政をかかえ三位一体の改革を進めており、地方自治体をとりまく環境は極めて厳しい状況にあります。

小松島市におきましても、これまでになく厳しい行財政環境の中にあつて、財政の健全化のためには、自主・自立の行財政経営が求められています。

こうした中、本市に長らく立地され、地元経済にも貢献いただいている「日本製紙小松島工場」の閉鎖が表明されるなど、本市にとって厳しい現実もございました。

その一方で、12月8日には、立江と櫛渕をつなぐ県道阿南小松島線バイパスが開通、また、13日には、東洋紡績小松島工場跡地に「コーナン小松島ショッピングセンター」の一部がオープン、20日には、全店舗がオープンいたしました。

そして、用地交渉が難航し、開通が遅れておりました県道・日開野花園線バイパスにつきましても、ようやく年度内には開通する見込みが立ったとのであります。

このように、今後の地域の活性化と発展への希望と展望を拓く明るい基盤整備も進んでおります。

いずれにいたしましても、厳しい状況下、財政基盤確立のための行財政改革、企業の誘致、少子高齢化への対応、健康増進、福祉活動への取りくみ、社会資本の整備など対応すべき課題は山積みしています。

しかし、限られた財源の中で、あれもこれもというわけには参りません。

私は、とりわけ小松島市が自立・持続可能な財政基盤の再生には、職員の意識改革はもとより、市民の一人ひとりのご理解とご協力こそが今、最も必要であると考えています。

市民の皆さまの期待に応えるために、市政の運営にあたりましては「行政は市民とともにつくる」ということを念頭におき、市民の声に耳を傾け市民の目線で物事を見て、市民のために何を為し何を選択すべきかを判断し、「開かれた市政」・「誠実な市政」を推進し、地域の活力を高めて参りたいと考えております。

市民の皆さんの変わらぬご協力をお願い申し上げます。年頭のこあいさつといたします。

1月

● 消防出初式（ミリカホール 326人）

● 第53回徳島駅伝小松島市チーム総合4位入賞

● 成人式（福祉センター 394人）

● 文化財保護防火訓練（日開野町藤樹寺）

2月

● 第20回義経夢想祭（芝生町旗山）

● 市民クロスカントリー大会

3月

● 市民なわとび大会（赤石グラウンド）

● 戸籍事務の電算化「戸籍統合システム」がスタート【写真1】

● 立江櫛渕地区農家が農事組合法人「くしぶち」を設立

● 立江川左岸バイパスが開通【写真2】

4月

● 小松島市議会議員一般選挙

● 市長ふれあい出前講座がスタート

● 小松島の観光名所や特産品を紹介するガイドブック「こまつしまGUIDE」発行

● 小松島市立小松島保育所を民営化「こまつしま健康会保育園」としてスタート。また、小松島市立新開保育所が民営化移管先法人と合同で保育をスタート【写真3】

● ウォークラリー市民大会（日峰公園）

5月

● 小松島春のまつり開催（市営グラウンド）

● 県内最高齢の綿奈部ツヤノさん（111歳）がご逝去

6月

● 市制56周年記念式典挙行（保健センター）

● 急傾斜地危険箇所を現地調査

● 海洋清掃運動「リフレッシュ瀬戸内」開催（横須金磯海岸）

● 小松島市行財政改革集中改革プランの一部を改定（新たに歳入確保の5億円を追加）